

第13回岡映研究会育研究会 水島博さん報告

「岡映と国民融合論—手書き資料の検討—」

水島さんの報告は、1974年1月から76年12月に至る手書き資料計8冊にわたる膨大詳細なものでした。国民融合論登場前後の講演記録類のうち、現存するすべてを網羅しています。

そのすべての記録の中で、岡映は終始一貫して、「国民融合論」こそ解放運動のとるべき道であり、それは部落解放同盟綱領に基づくものであり、戦前の水平社運動以来の原則そのものであると繰り返し述べていることが、水島報告で明らかになりました。

そして岡映は、「国民融合論」を説く必然性を、朝田善之助らの糾弾路線や、国民すべてを「差別者」と断ずる閉鎖性などから、新の部落解放運動を救い出すためだとしていることも、水島報告から明らかになりました。

こう見てくると、岡映は、国民融合論の提唱者として現れてきます。彼自身の主張と国民融合論との間には、ある距離があったのではないかといった疑いは、意味のないものとなりかねません。

しかし、岡自身の、かつての奈良本論文（解放同盟綱領「アメリカ帝国主義に従属する日本独占資本こそ部落差別の元凶」という立場に真っ向から反する提言）への批判や、榊理論にある部落解放は途中駅とする指摘などと、どう整合するのかなどが、やはり問題となります。

岡は、浅田問題、八日事件などに言及し、国民融合の重要性を繰り返し説きますが、部落差別の本質論そのものには、触れようとしていないように見えます。このあたりに、人間岡映、政治家岡映の実像に迫る問

題が伏在していそうです。

教育研究会住寄報告

住寄さんは、「新しい教科書の特徴と問題」と題して報告されました。新しい教科書で、漢字練習ドリルや計算ドリルなどがふえたことは、それなりに評価できるけれども、本格的な修練のためには中途半端な印象を免れないとされました。それ以外に最近の学校現場が抱えるいろんな問題を指摘されました。なかでも、3学期制が2学期制になったことが、学習のまとめや区切りをつける点で、生徒も教師も不便を感じていると報告されました。

秋期合同学術集会のお知らせ

私たちセンターでは、教育研究会、岡映研究会、「現在」研究会を開催しています。この11月6日（日）にこの三つの研究会を合同で開催し3研究会の合同学術集会を開催しようということになりました。

どうか積極的なご参加をお願いします。

人権散歩ご案内

6月1日日センター恒例の人権散歩を予定していましたが、やはりウィークデイは無理でした。参加を希望しておられた若干名が、当日体調を崩され不参加となり、結局、この日の人権散歩は、残念ながら中止ということになりました。